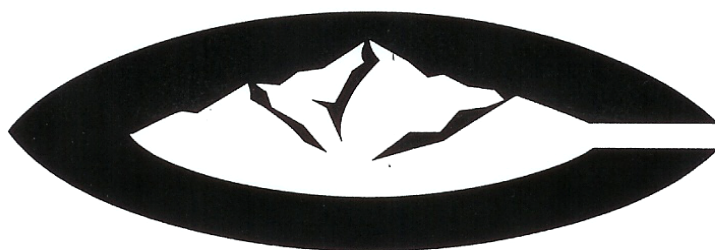


平成22（2010）年度

第12回

通常総会提出資料

平成21（2009）年度 活動報告書
平成22（2010）年度 事業計画書



中央大学ハイキング部OB会

<http://chcobsite.p1.bindsite.jp/>

Google

CHC OB会

検索

第12回通常総会議案

日 時：平成22（2010）年5月30日（日） 午後2時

場 所：中央大学駿河台記念館 「680号教室」

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議長選任

4. 議事録署名人の選任並びに書記の指名

5. 議 事

第1号議案 平成21年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）
活動報告並びに収支決算報告、監査報告の件

第2号議案 終身会員制度の廃止に伴う年会費規程の一部改正の件

第3号議案 平成22年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日）
事業計画（案）並びに収支予算（案）設定の件

第4号議案 創部50周年記念事業計画進捗状況及び今後の予定の件

6. 報告事項

- （1）学年代表幹事交代報告について
- （2）副部長・監督等の派遣について
- （3）ホームページ運営委員会の実状と今後の方向性について
- （4）現役活動状況報告及び新年度活動計画について

7. 来賓祝辞

8. 閉 会

ご 挨拶

中央大学ハイキング部OB会の会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

お陰様で、当会は今回の総会を持ちまして12年目を迎えることができました。此れもひとえに会員皆様方の日頃からのご支援、ご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

現在、当会の運営につきましては、「創部50周年記念事業計画」の実現に向けて各部会が着々と準備を進めるとともに、一昨年初めに立ち上げましたホームページをさらに充実させ、これを有効活用することを目的に連絡網の充実も図っております。

しかしながら、ここ数年、会費納入率が著しく低下しており、会の存続のためには運営諸経費や現役援助費などの削減も余儀なくされておりますのが実情であります。

様々な個々の事情があるかと存じますが、特に若年層の会費納入率の低下傾向もあり、甚だ遺憾ではありますが会の存続のためにも、今年度から従来の終身会員制度を廃止することを提案させていただきました。

これまで終身会員になられた方の資格は喪失しませんが、会の窮状をご理解いただいた上で今後、勝手ながら運営費への充当を目的としたご寄付などをお願いできれば幸甚に存じます。

また、財務内容を明確にするため、一般会計と50周年事業特別会計を区分し、財務の透明性を図ってまいりました。

このように今年度は「財務の健全化」を図るため、身の丈に合った事業内容に見直すとともに効率運営を目指す一方、会費や寄附金のご依頼を従前以上に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

どうぞ会員皆様方のより一層のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

そして、世代間を超えた一体感のある組織にできればと念じております。

平成22(2010)年5月30日

中央大学ハイキング部OB会

会 長 広 瀬 清 晃

平成21年度活動報告

1. 事業概要

昨年度に引き続きOB会会則のもと、次の活動方針に基づいて取り組んでまいりました。

1. OB会と部長そして現役との親睦、意思疎通を図る。
2. 安全対策のための体制の構築
3. ホームページの充実
4. 会費納入率向上に向けての施策の検討
5. 50周年事業計画の啓発

2. 各委員会の活動概要

理事会との連携強化を図りOB会運営の円滑化を目指すとともに、各委員会からの意見、問題点、報告を受け、それを基に理事会で討議してまいりました。

(1) 企画会

企画会は、理事会との連携強化によりOB会運営の円滑化を図ってまいりました。

また、定例行事となった交流キャンプを通じてOBと現役の相互理解を深めるとともに、自然保護を啓発する観点から自然体験教室等を開催して行事の定着化を図ってまいりました。

親睦スキーでは、初参加のOB会員もあり、思い出深い戸隠高原スキー場でシルバーリフト券を使い、大いに滑走を楽しむとともに、夜の懇親会では昔自話に花を咲かせ、年齢を忘れて雪と戯れました。

【今年度実施した定例行事】

①	第11回現役・OB交流キャンプ 【平成21年7月11日(土) ～12日(日)】	奥多摩・氷川キャンプ場にて実施 全員集合まで、「鱒つり大会」を実施。成果50匹を夕食にて食す。 参加者:OB19名 現役25名 合計44名
②	第10回山しごと体験教室 【平成21年10月24日(土)】	奥多摩町氷川の「子の神沢体験フィールド」にて実施 雨空の下、50周年事業植栽予定地での下刈り体験。 参加者:OB 7名、員外 2名 現役 4名 合計13名 指導:「奥多摩山しごとの会」 6名
③	第7回 2010新年会 【平成22年1月19日(金)】	数寄屋橋ニュートーキョー本店「ステラ」 参加者:OB 35名 来賓1名 現役 4名 合計 40 名
④	第7回親睦スキー 【平成22年2月6日(土) ～7日(日)】	長野県戸隠高原スキー場にて実施 初参加のOBが増え、盛大に実施できました。 参加者:OB 19名

(2) 事務局

会を支える各委員及び学年代表幹事との窓口として、会員名簿のメンテナンス等の対応を図りました。

更に、会員宛連絡文書や創部50周年事業計画の趣意書等の発送作業を実施するとともに、各種行事の参加者確認等を行ない、OB会の裏方として庶務的事項を処理してまいりました。

(3) 広報委員会

広報活動を通じ、OB会の事業目的や活動内容を会員に伝達し、理解と協力を求めるため、ホームページの管理・運営に努めました。

また、三年前に全面改訂したホームページの更なる充実を図るため、50周年記念専用ホームページを新設いたしました。

しかしながら、ホームページへの来訪者数も低迷していることから、メーリングリストの構築に努めました。

(4) 安全対策支援委員会

各合宿の安全対策支援のため、現役役員会において計画書の事前審査等を徹底し、安全登山への啓発を行いました。

また、合宿中の通信手段の見直しを図り、携帯電話やホームページ等を利用した即時的な連絡体制を構築しました。

前年度に引き続き、部長・副部長・監督・現役の連絡を密にし、よりスピーディな情報共有に努めました。

- ① 緊急時の出動要員行動基準の運用
- ② 理事・監督・現役間の連絡体系・連絡網の整備
- ③ 事故発生時のシュミレーション

(5) 予算委員会

会費の納入は、予想以上に激減し、前年度を大きく下回っており、また、創部50周年記念事業寄附金につきましても予想以上に納入が伸び悩んでおります。更なる各OB皆様方のご理解と経費の節減に努力をしなければならないと痛感しております。

(金額単位:千円)

	目標		実績		備考
	人数又は口数	金額	人数又は口数	金額	
① 年会費	140	600	82	409	納入数は、人数
② 一般寄附金	-	100	-	345	
③ 50周年寄付金	240	1,000	66	330	納入数は、口数

納入いただきました上記②・③の寄附金のうち、郵便振替用紙の使途未記入分につきましては、「一般寄附金」として処理させていただきました。

平成21年度より、会の運営を中心とした「一般会計」と50周年事業に特化した「50周年事業特別会計」に分離し、収支の改善に努めました。

3. 主な活動経過

年月日	会議名等（場所・出席者）	処理事項
平成21年 4月9日(木)	第7回理事会（築土神社） 役員 9名 委員 1名	1. 平成21年度各委員会方針の件 2. 任期満了に伴う役員改選及び各委員会構成の件 3. 第11回現役・OB交流キャンプ実施計画の件
4月24日(金)	会計監査（吉津会計事務所） 監事 2名、担当理事 1名	平成20年度会計監査
5月14日(木)	第8回理事会（築土神社） 役員 7名 委員 1名	第12回総会資料の確認と運営方法協議
5月23日(土)	現役春合宿 日光・奥白根山	参加者：OB 3名
5月30日(土)	第11回OB会通常総会 (ニユートーキョー数寄屋橋本店9階「ラ・ステラ」) 出席者 42名 (本人出席 24名) (代理出席 2名) (委任状出席 16名)	1. 平成20年度活動報告・収支決算報告・監査報告承認の件 2. 平成21年度事業計画案・事業予算案承認の件 3. 任期満了に伴う役員選任の件 4. 創部50周年記念事業計画進捗状況及び今後の展開の件 5. 学年代表幹事交代報告の件 6. 副部長・監督等の派遣報告の件 7. ホームページ運営委員会の現状報告の件 8. 現役活動報告・新年度活動計画報告の件
6月11日(木)	企画会（新宿「庄屋」） 委員 4名	1. OB会運営協議(主に年会費納入率増強策) 2. 諸行事協議(主に創部50周年事業計画の進め方)
6月26日(金)	第1回理事会（築土神社） 役員 9名 委員 1名	1. 年会費未納者対応策 2. 創部50周年記念事業の進め方等について協議
7月6日(月)	企画会（新宿「庄屋」） 委員 4名	1. OB会運営協議(主に年会費納入率増強策) 2. 諸行事協議(主に創部50周年事業計画の進め方)
7月11日(土) ～7月12日(日)	第11回現役・OB交流キャンプ 奥多摩・氷川キャンプ場	参加者:OB 19名、現役 25名 合計 44名
7月15日(水)	安全対策支援委員会（理工学部 会議室） 委員:4名 コーチ:2名 現役:8名	1. 夏合宿概要の最終確認 2. 夏合宿緊急連絡網の最終確認
7月22日(木)	第2回理事会(新宿「庄屋」) 役員 8名 委員等 1名	1. 会費納入率の向上策と学年代表幹事対策 2. 第10回自然体験教室実施計画 3. 50周年記念事業の進め方協議 4. 現役夏合宿の概要報告 等
9月3日(木)	企画会（新宿「庄屋」） 委員 5名	1. OB会運営協議(主に年会費納入率増強策)
9月10日(木)	第3回理事会（築土神社） 役員 9名 委員等 3名	1. OB会の方向性、運営方法等のあり方
10月15日(木)	第4回理事会（築土神社） 役員 6名 委員等 2名	1. OB会の方向性、運営方法等のあり方(継続協議) 2. 現役夏合宿状況報告 等

年月日	会議名等（場所・出席者）	処理事項
0月24日(土)	第10回山しごと体験教室 (奥多摩・子の神沢の山林)	参加者:OB 7名、OB家族 2名 現役 4名 合計13名 指導:「奥多摩山しごとの会」 6名
11月19日(木)	第5回理事会（築土神社） 役員 8名	1. OB会の方向性、運営方法等のあり方(継続協議) 2. 今後の諸行事関係報告 3. 創部50周年事業進捗状況報告 4. 現役活動状況報告 5. 年会費、50周年事業寄附金等納入状況報告 等
2月12日(土)	現役 総会（理工学部5131教室） 役員:5名 コーチ:2名 OB:4名	新執行部承認 総会終了後、忘年会
2月17日(木)	第6回理事会（新宿「庄屋」） 役員 7名	1. OB会の方向性、運営方法等のあり方(継続協議) 2. 新年会役割分担 3. 創部50周年事業進捗状況報告 4. 年会費、50周年事業寄附金等納入状況報告 等
平成22年 1月12日(火)	企画会（新宿「庄屋」） 委員 4名	1. 理事会運営協議 (主に終身会員制度・ホームページ運営)
1月29日(金)	第7回 2010新年会 (ニユートーキョー数寄屋橋本店「ラ・ステラ」)	参加者:OB 35 名 来賓1名 現役 4 名 合計 40 名
2月1日(月)	第4回50年史編纂部会(築土神社) 部会員 8名	1. 年代別活動履歴の書式と原稿依頼等の協議
2月6日(土) ～7日(日)	第7回OB会親睦スキー (長野県戸隠高原スキー場)	参加者: OB 14名
2月18日(木)	第7回理事会（築土神社） 役員 8名 委員等 2名	1. OB会の方向性、運営方法等のあり方(継続協議) 2. 次年度基本方針と諸行事日程 3. 創部50周年事業進捗状況報告 4. 年会費、50周年事業寄附金等納入状況報告 等
3月2日(火)	現役 冬合宿 倉岳山	参加者: OB 2名
3月8日(月)	第5回50年史編纂部会(築土神社) 部会員 7名	1. 記念史概要等の協議
3月20日(土)	現役歓送会参加 (文京区シビックセンター)	副部長他 9名
3月25日(木)	第8回理事会（築土神社） 役員 10名	1. 来年度計画の協議 2. 来年度日程概要協議 3. 50周年実行委員会各部会の進捗状況 4. 年会費等の納入状況 等

4-1. 平成21年度収支報告書

【一般会計】

自:平成21年4月 1日

至:平成22年3月31日

(単位:円)

科 目	決 算	備 考
I. 収入の部		
前 期 繰 越 金	41,746	
年 会 費	409,000	
一 般 寄 附 金	345,000	
雑 収 入	46,305	自然体験教室・新年会剰余金、受取利息
50周年記念事業会計から振替	204,715	注記表①参照
計	1,046,766	
II. 支出の部		
監 督 ・ コ ー チ 援 助 費	150,000	監督・コーチ活動補助金
総 会 費	45,790	会場費不足分補填
会 議 費	40,000	理事会会場提供謝礼費用
通 信 事 務 費	191,301	資料印刷、郵送料、事務用品等
交 流 会 費	32,689	交流キャンプ不足分補填・山しごと体験教室謝金
歓 送 会 費	10,000	現役歓送会参加費
現 役 活 動 援 助 費	80,000	合宿・総会等補助費
合 宿 参 加 援 助 費	0	役員・監督・コーチ合宿派遣補助費
慶 弔 費	0	
広 報 費	14,800	ホームページ関連費用
雑 費	1,312	振込手数料等
50周年記念事業会計へ繰入	457,000	注記表②参照
計	1,022,892	
III. 別途積立金		
遭 難 対 策 積 立 金	0	
計	0	
IV. 次期繰越金	23,874	

注 記 表	①	②
	昨年度までに50周年事業関連費用として支出した費用を一般会計として処理すべく、当該年度の一般会計の支出から50周年事業特別会計の費用として振替処理をしたものの。	昨年度50周年事業の寄附金として557,000円を計上。 しかしながら昨年度は、100,000円の積立のみ実施。
	平成19年度通信事務費(50周年用資料印刷)	42,105
	平成19年度広報費(50周年用ホームページ)	9,660
	平成20年度通信事務費(50周年用資料印刷・郵送料)	124,350
	平成20年度広報費(50周年用ホームページ)	28,600
	合計	204,715

4-2. 平成21年度収支報告書
【50周年事業特別会計】

自:平成21年4月 1日
至:平成22年3月31日

(単位:円)

科 目	決 算	備 考
I. 収入の部		
前 期 繰 越 金	2,012,000	昨年度までの積立金
50周年事業寄附金	330,000	66口(34名、3世帯)
一般会計からの戻入	457,000	一般会計注記表②参照
計	2,799,000	
II. 支出の部		
通 信 事 務 費	78,750	資料印刷、郵送料等
広 報 費	19,600	50周年用ホームページ関連費用
一般会計へ繰入	204,715	一般会計注記表①参照
計	303,065	
III. 次期繰越金	2,495,935	

注 記 表

前期繰越金の内訳

平成18年度積立金	500,000 円
平成19年度積立金	1,412,000 円
平成20年度積立金	100,000 円
合計	2,012,000 円

5. 平成21年度財産目録

平成22年3月31日現在

中央大学ハイキング部OB会

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
現 金	0	} ※脚注参照 三井住友銀行 大宮支店 昨年度までの50周年事業積立金含む
郵便貯金(通常) 1	8,113	
郵便貯金(通常) 2	5,000	
普 通 預 金	171,283	
郵便振替口座	2,405,000	
郵便貯金(定額)	5,000,000	平成11年度～平成20年度遭難対策積立金 9口
借 入 金	-69,587	※会計担当者立替分
合 計	7,519,809	

注：現金＋郵便貯金（通常）＋普通預金＋郵便振替口座＋借入金＝2,519,809円（A）

（A）－ 0円（21年度遭難対策積立金）－ 0円（21年度50周年事業積立金）＝2,519,809円（次年度繰越金）

一 般 会 計 繰 越 金 23,874 円

50周年事業特別会計繰越金 2,495,935 円 （昨年度までの50周年事業積立金含む）

監 査 報 告 書

私たち監事は、平成21年4月1日より平成22年3月31日までの平成21年度の理事の事業活動の執行状況を監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事からその活動等の執行状況について報告を聴取し、活動状況及び財産の状況を調査しました。

上記に基づき、理事より提出された活動報告書、収支報告書及び財産目録につき検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 活動報告書は、会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 収支報告書及び財産目録は、適正妥当に処理されているものと認めます。
- (3) 理事の事業遂行に関する不正の行為または会則に違反する事実は認められません。

平成22年5月6日

中央大学ハイキング部OB会

監 事 吉 津 雄 次 ⑩

監 事 勢 義 丈 ⑩

「終身会員」制度廃止に伴う年会費規程の一部改正について

1. 改正理由

終身会員制度については、平成13年に制度を導入し9年を経過し、その間58名の方が終身会員として登録されておりますが、終身会員に該当する年代層が増加する一方で、若年層による年会費の納入が低下傾向にありますのが現状であります。

年会費納入の向上に向けて、種々施策を講じたものの、年会費の減少による会の運営に支障を生じる恐れもあり、このままの状態が続きますと会の存続も危ぶまれる状況下にあります。

つきましては、この様な背景から、今般、やむを得ず終身会員の制度を廃止するものであります。

なお、既に終身会員として登録された58名方は、終身会員として存置いたします。

2. 新旧対照表

改正後				改正前			
第1条 中央大学ハイキング部OB会会則第14条による年会費は次による。				第1条 中央大学ハイキング部OB会会則第14条による年会費は次による。			
区分	金額	特例	備考	区分	金額	特例	備考
男性会員	年間 5,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円		男性会員	年間 5,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円	
女性会員	年間 3,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円		女性会員	年間 3,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円	
世帯会員	年間 5,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円		世帯会員	年間 5,000円	ハイキング部卒業後5年以内 年間2,000円	
削除				終身会員	20,000円		ハイキング部卒業後38年以上経過した者が選択できる。
※「世帯会員」とは、夫婦ともにOB会員である場合をいう。				※「世帯会員」とは、夫婦ともにOB会員である場合をいう。			
第2条以下 略				第2条以下 略			
附 則 この規程は、平成22年5月30日に改正し同日より施行する。 但し、平成22年5月30日までに終身会員の制度を利用して終身会員の会費を納入された会員の資格は存置する。							

3. 改正日 平成22年5月30日に改正し同日より施行する。

平成22年度事業計画

自：平成22年4月 1日

至：平成23年3月31日

1. 活動基本方針

会の目的が迅速かつ安定的に推進するために、また、創部50周年の節目に向けての運営の基本方針を次の通りといたします。

- (1) 現役との一体感を持ったOB会
- (2) 会員同士の活発な交流と意思の疎通が図れるOB会

2. 活動計画

【OB相互】

- ① OB相互の親睦の拡大と充実(行事内容の充実と分散化)
- ② 広報活動の充実(ホームページ)と連絡網の整備強化(メールの有効活用)
- ③ 会費納入率の向上に向けての協力体制の強化と向上運動の展開

【現役支援】

- ① 安全対策のための体制強化
- ② 相互理解の深度を図るための現役との定期的会合の実施

【OB・現役共通】

- ① 創部50周年事業の周知に向けての広報の充実
- ② 創部50周年事業の具体的事業の実施
- ③ 現役の活動を紹介する定期広報「現役活動だより」を発行。

(1) 企画会

各委員会に関わる案件などについて、迅速に対応できるように事前の打ち合わせを行なうとともに、理事会をスムーズに運営できるように努力してまいります。

- ① 50周年事業の具体化を進め、会員諸氏に対しての理解を求めてまいります。
- ② 部長、副部長、監督等との連携を強化して、現役への支援の充実を図ってまいります。

【今年度予定している主な行事】

①	第12回現役・OB交流キャンプ (翌日は、川乗谷探勝路トレッキング予定)	平成22年7月3日(土)～4日(日) 場所:奥多摩「氷川キャンプ場」
②	第11回自然体験教室 (50周年事業植樹予定地での事前作業)	平成22年10月中旬 場所:奥多摩町子の神沢「林業体験フィールド」 指導:「奥多摩山しごとの会」
③	第8回2011年新年会	平成23年1月28日(金) 場所:未定
④	第8回親睦スキー	平成23年2月11日(金)～13日(日) 場所:長野県戸隠高原スキー場

（２）事務局

会の円滑なる運営を図るため、会を支える各会員及び学年代表幹事との窓口としての機能を充実してまいります。

- ① 会員名簿台帳の整備と連絡体制の強化
- ② 学年代表幹事との連絡網の整備
- ③ 各会員からの要望等取り纏め
- ④ 慶弔関係の運営
- ⑤ 現役との連絡強化

（３）広報委員会

広報活動を通じ、OB会の事業目的や活動内容を会員に伝達し、理解と協力を求めてまいります。

更に、ホームページ運営委員会との連携を強化してまいります。

- ① ホームページの運営・管理による情報の迅速化
- ② 事務局との連携によるメール網拡大に向けての対応と構築
- ③ 50周年記念実行委員会と連携して広報活動の充実強化

（４）安全対策支援委員会

現役の本部・リーダーを中心に監督・コーチ等を通じた安全指導を行なうとともに、緊急時の出動要員確保に向けて引き続き整備強化を図ってまいります。

- ① 現役部員の増加に伴う安全対策の見直し及び啓発活動の強化
- ② 現役合宿時における連絡体制の強化、研究
- ③ 副部長・監督・コーチ等の派遣による支援強化

（５）予算委員会

会の存続と運営は、会員各位の協力がなくては維持できません。会を維持し現役に対する支援には当然のことながら資金が必要になります。

前年度の実績を踏まえて、より多くの会員各位の支援を得るため、支出の削減に更に努力するとともに、会費収入の増加に向けての諸施策を検討してまいります。

このような情勢下、既に終身会員に登録された方々には、終身会員制度の廃止に伴い運営経費の一部を勝手ながら寄附金でのご協力をお願いしたいと考えております。

また、50周年事業計画の寄附金募集がスタートしておりますが、50周年事業計画のスムーズな運営が実施するための態勢を強化し対応を図ってまいります。

- | | | |
|-----------------|-------|-------|
| ① 平成22年度目標会費 | 80 口 | 40 万円 |
| ② 50周年記念事業寄附金目標 | 120 口 | 60 万円 |

3. 平成22年度収支計画
【一般会計】

自:平成22年4月 1日
至:平成23年3月31日

(単位:円)

科 目	予 算	備 考
I. 収入の部		
前 期 繰 越 金	23,874	
年 会 費	400,000	80人
一 般 寄 附 金	280,000	
雑 収 入	6,126	受取利息等
計	710,000	
II. 支出の部		
監 督 ・ コ ー チ 援 助 費	150,000	監督・コーチ活動補助金
総 会 費	50,000	会場費補助
会 議 費	40,000	理事会会議室使用謝礼等
通 信 事 務 費	180,000	各資料印刷、郵送料、事務用品等
交 流 会 費	30,000	交流キャンプ補助・自然体験教室謝金
歓 送 会 費	20,000	現役歓送会補助
現 役 活 動 援 助 費	80,000	合宿・総会補助・備品購入援助外
合 宿 参 加 援 助 費	10,000	OB・役員・監督・コーチ合宿派遣補助費
慶 弔 費	10,000	
広 報 費	40,000	ホームページ関連費用
雑 費	5,000	諸手数料
予 備 費	50,000	
計	665,000	
III. 次期繰越金	45,000	

創部50周年記念事業計画進捗状況及び今後の展開の件

1. 経 過

- ① 第9回の通常総会において記念事業が承認された。(平成19年5月)
- ② 事業計画の初年度として、「趣意書」を各OBに対して送付し理解を求めた。(平成19年6月)
- ③ 寄附金募集の取り組みを行い、寄附者に対して「礼状」を発送。(平成19年9月)
- ④ OB会のホームページの構築に併せ過去の部報等を整理。(平成19年9月)
- ⑤ 併せて、部報等のデジタル化の作業を実施。(平成19年9月)
- ⑥ リニューアルした「趣意書」を再発送するも効果薄。(平成20年6月)
- ⑦ 実行委員会の下部組織である各部会が活動を開始。(編纂部会、フォーラム式典部会) (平成20年12月)
- ⑧ 再リニューアルした「趣意書」2009年版を発送。(平成21年6月)
- ⑨ 50周年専用のホームページをアップ(平成21年7月)
- ⑩ 50周年史編纂に向け部報の整理と原稿依頼(平成22年2月)

2. 寄附金納入実績

受領年度	OB本人	OB世帯	関係者	寄附金額
平成18年度	1	0	0	500,000
平成19年度	97	6	1	1,412,000
平成20年度	45	2	0	557,000
平成21年度	34	3	0	330,000
合計	177	11	1	2,799,000

3. 今後の展開

(1) 重点実施事項

① 50周年事業の積極的アピール

- ・ホームページの活用による周知と寄附金募集の推進
- ・現役部員への意識の醸成

② 記念事業の具体的検討

- ・記念史編纂に向けて各学年代表幹事への協力再要請
(具体的な協力要請：各代の写真の借用と部報未発行年代への原稿依頼)
- ・記念植樹（本年度を含め2年間）、尾瀬記念山行・記念フォーラム（2011年度）の実現に向けての実施計画の立案と募集開始

③ 運営組織の活性化

- ・運営組織の活性化を図るため、各OBに対する協力を要請。
- ・各事業の実現に向け、現役との連携強化を図り一体感を醸成。

以上

報告事項

1. 学年代表幹事交代報告 【平成22(2010)年5月17日現在】

(1) 新たに就任する学年代表幹事 (敬称略)

代/卒業年	氏 名
49代/平成22	三 浦 裕 二

(2) 交代する学年代表幹事 (敬称略)

代/卒業年	新	旧
13代/昭和49	神 永 恵 司	黒 須 邦 昭

(3) 平成22年度学年代表幹事一覧表 (敬称略)

卒 業 年	代	氏 名	卒 業 年	代	氏 名
昭和39年	3	秋 庭 一 昶	昭和63年	27	北 島 幹 夫
昭和40年	4	倉 田 博	平成元年	28	宇 野 嘉 晃
昭和41年	5	多 湖 功	平成2年	29	厚 海 広 道
昭和42年	6	片 桐 健 一	平成3年	30	岩 崎 研 志
昭和43年	7	鈴 木 護	平成4年	31	久 能 弘 造
昭和44年	8	水 吉 賢 次	平成5年	32	岡 田 宏 幸
昭和45年	9	徳 武 和 樹	平成6年	33	竹 中 賢 治
昭和46年	10	八 木 富 美 男	平成7年	34	小 堀 政 佳
昭和47年	11	川 杉 洋 一	平成8年	35	島 村 直 成
昭和48年	12	空 閑 正 利	平成9年	36	中 島 宏 明
昭和49年	13	神 永 恵 司	平成10年	37	田 方 靖 高
昭和50年	14	荒 井 茂 樹	平成11年	38	廣 橋 武 志
昭和51年	15	山 田 辰 教	平成12年	39	貴 船 泰 幸
昭和52年	16	鹿 野 治 雄	平成13年	40	内 山 治 之
昭和53年	17	茂 岡 幹 弥	平成14年	41	徳 野 将 之
昭和54年	18	徳 満 哲 夫	平成15年	42	中 里 峰 雄
昭和55年	19	伊 藤 賢 二	平成16年	43	和 田 秀 樹
昭和56年	20	船 曳 靖 男	平成17年	44	三 枝 克 年
昭和57年	21	吉 田 典 夫	平成18年	45	竹 間 克 俊
昭和58年	22	中 尾 逸 郎	平成19年	46	吉 岡 康 裕
昭和59年	23	大 野 嘉 弘	平成20年	47	高 橋 立 寛
昭和60年	24	佐 藤 至	平成21年	48	飯 田 浩 平
昭和61年	25	金 子 公 彦	平成22年	49	三 浦 裕 二
昭和62年	26	沼 口 一 幸			

2. 副部長・監督・コーチ等の派遣報告

OB会会則第12条第3項第3号に基づき、次の者を任命し、かつ派遣することといたしましたのでご報告いたします。

なお、下記の派遣する者は、若手のOBを登用し、2名が交代しております。

なお、監督を中心とした現場主義を優先する一方、監督の負担軽減を含め現役支援ならびに部長との連携強化を目的に昨年度より副部長が2名体制となっております。

(敬称略)

役 職	氏 名	卒 業 年	代	備考
副部長	高 村 勲	昭和40年	4	理事兼務
〃	本 澤 直 彦	昭和42年	6	理事兼務
監 督	田 方 靖 高	平成10年	37	理事兼務
助監督	廣 橋 武 志	平成11年	38	理事兼務
コ ー チ	中 里 峰 雄	平成15年	42	
〃	松 山 昌 弘	平成16年	43	
〃	吉 岡 康 裕	平成19年	46	
〃	飯 田 浩 平	平成21年	48	新 任
〃	加 藤 和 正	平成21年	48	新 任

3. ホームページ運営委員会の実情と今後の方向性について

(1) 平成21年度の実施事項

広報委員会の下部組織として、2007(平成19)年8月30日HP 運営委員会が発足後、無料のレンタルサーバー”@PAGES”を使用した、専用サーバーに切替え今日に至っている。

平成21年度に取り組んだ重点施策と具体的な取組事項は、以下のとおり。

【重点施策】

- ① OB会ホームページと50周年記念ホームページの定期的なデザイン更新
- ② OB会からの連絡ツールとして、タイムリーな情報アップ
- ③ 投稿された「現役時代の写真」を50周年記念ホームページに順次掲載
- ④ メールアドレス登録会員へのサイト更新情報配信

【具体的取組項目】

- ① 二つのホームページの定期更新:表紙は原則として月1回更新
- ② ホームページ作成ソフトのバージョンアップ:Bind2からBind3へ
- ③ サイト運営サーバーの変更:レンタルサーバーから専用サーバーへ(BiND Server)
- ④ 現役時代の8mm動画を Googleの「YouTube」方式に変更
- ⑤ グループメールの立ち上げ:OB会員189名でメーリングリストの構築

【問題点・課題等】

- メールアドレス登録会員数の伸び悩み
→OB総数:803名・AD登録数:189名(内、携帯アドレス14名)・未登録数:475名
- 学年代表幹事のアドレス未登録者が多く、メール連絡網が未構築
→AD登録者:26名(内、携帯アドレス2名)・未登録者:20名
- OB会員からホームページへの投稿が皆無に等しい
→閑人会、三四五会等、特定のグループイベントのみ掲載

(2) 平成22年度の実施事項

平成22年度においても前年に引き続きホームページの充実を図っていくものの、掲載ネタとメール網の構築に重点をおいた活動になるものと思料する。

平成22年度に取り組む重点施策と具体的な取組事項は、以下のとおり。

【重点施策】

- ① 「OB会HP」と「50周年記念HP」の定期的なデザイン更新
- ② OB会からの連絡ツールとして、タイムリーな情報UP、及び更新情報配信の頻度UP
- ③ パソコンサイトだけでなく、携帯電話でも閲覧できるモバイルサイトを構築
- ④ 「年代毎の現役時代の写真」「各代毎の活動ダイジェスト」を50周年記念HPに掲載

【具体的取組項目】

項 目	具 体 策	実施時期
①グループメール登録者数の増大 →未登録者の半減を当面の目標に設定	①未登録者への働きかけ →PCアドレスだけでなく、携帯アドレスでも登録推進 →特に、学年代表幹事のアドレス登録を強力に推進(メール連絡網構築)	①推進方法を理事会で検討
②モバイルサイトの構築 →PCを日常的に使わない人でも、携帯で見れるサイトを構築	②HP作成ソフトBiNDの有料オプションを使ってモバイルサイトの構築を検討 →月額: ¥2,980(年額: ¥35,760) →PCサイトと同一サイトが簡単作成 →パスワードページの構築も可能	②2010年4月サービス開始予定 →実施の可否を理事会で協議
③BiND付属・専用サーバーの継続利用	③2年間サーバー使用料込み: ¥24,800 →但し、2010年度分は支払済み	③運用中
④50周年記念HPを50年誌WEB版に育成	④「現役時代の写真」と「活動ダイジェスト」を順次掲載	④適宜掲載

【今後の課題】

- ホームページのネタ不足: 掲載ネタは、OB会行事、同期会報告、閑人会報告のみ
 - OB会員からのホームページへの投稿募集
 - 山行記録・旅行記・趣味の紹介・PBイベント案内等の投稿は、皆無に近い
 - どうすればホームページへの参画意識が高まるか? 議論が必要

(3) 委員会の構成

ホームページ管理人 : 本 澤 理 事
 ホームページデザイン担当 : 大 門 委 員

4. 現役活動状況報告及び新年度活動計画

(1) 昨年度(2009年度)の活動実績

日 程	行 事 名	地 域
4月11日～4月12日	新入生歓迎ハイキング	氷川キャンプ場・青梅丘陵
5月4日	関東学生ハイキング連盟新歓行事	代々木公園
5月23日～5月25日	春合宿	日光白根山
6月20日～6月21日	トレーニング合宿	川苔山・大岳山
7月11日～7月12日	OB・現役合同キャンプ	氷川キャンプ場
8月5日～12日	夏合宿	北岳・穂高岳・立山
9月2日～9月5日	関東学生ハイキング連盟合宿	箱根
9月3日～9月6日	リーダー養成合宿（前期）	甲武信ヶ岳
9月7日～9月10日	リーダー養成合宿（中期）	甲武信ヶ岳
9月13日～9月16日	リーダー養成合宿（後期）	甲武信ヶ岳
10月29日～11月3日	秋強化合宿	雲取山（石尾根縦走）
12月12日	総会・忘年会	理工校舎
2月10日～2月13日	スキー合宿	苗場スキー場
2月27日～3月3日	冬合宿	大菩薩嶺・倉岳山
3月15日～3月18日	強化合宿（再）	雲取山
3月20日	歓送会	文京区シビックセンター

その他

- ①フリープラン…………… 乾徳山(4月25日～26日) 雲ノ平(8月13日～17日)
陣馬山(5月10日) 谷川岳(9月16日～9月18日)
丹沢ボッカ駅伝(6月7日) 八ヶ岳・硫黄岳(12月27日～29日)

②兼松学校(戸隠)………トレーニングキャンプ

③ホームページの更新 <http://www.geocities.jp/chuohiking/>

新入生勧誘に向け、公式ホームページのリニューアルを行いました。

[現在のコンテンツ]

トップページ	新着情報、イメージ写真を掲載
部紹介	中央大学ハイキング部についての紹介。
活動計画	年間の行事予定等を掲載。
写真館	活動の記録を写真で紹介。随時更新。
部員専用	部員間の連絡用。パスワード設定。
掲示板	合宿報告、部外者からの問い合わせなどに対応。
リンク	連盟他団体(工学院、大妻女子、跡見女子のHP)にリンク

※その他、「タイムスリップ」という特別企画を実施。過去の活動写真を紹介。

「第51代主将 志賀辰哉」からの決意表明・メッセージ

ここ数年は上記のような年間スケジュールで活動を行っています。2年の冬から新執行部として部の合宿を取り仕切るようになり、就職活動が大学3年から始まるのに合わせてハイキング部も3年の秋で引退となっています。

新入生は10名以上入る年が続いていますが、今年度の春合宿に参加する**新入生が20名**近くになるということで、部員総出で勧誘に努めました。

とはいえ、課題も多く、**登山装備や保険代、合宿費用などの金銭的負担は多くの部員にとって大きな問題です。**金銭的理由から入部を辞退する新入生も少なからずいました。それでも**最近では登山ブーム**といわれており、**若者を中心に登山人口が増加しています。**

OB・OGの皆様が培ってこられた **古き良き伝統と強靱な精神を糧として**、野外活動を通じて「**自然の偉大さ**」や「**人間ひとりひとりの尊さ**」をいつまでも次世代に引き継いで参りたいと思います。

今年度もOB・OGの皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(2) 本年度の現役活動計画

① 部員数

カッコ内は女性

第53代	第52代	第51代	第50代	
1年生	2年生	3年生	4年生	総数
勧誘中	12人	17人	11人	40人
勧誘中	(0人)	(5人)	(2人)	(7人)

5月1日現在

② 行事予定

◎既に実施した行事

日 程	行 事 名	地 域
4月17日～18日	新入生歓迎ハイキング	氷川キャンプ場泊 青梅丘陵ハイキングコース

◎今後実施を予定している行事

日 程	行 事 名	地 域
5月下旬	春合宿	リーダー会での検討後、副部長、監督・コーチのアドバイスを加えて決定する。
7月上旬	トレーニング山行	
8月上旬	夏合宿	
9月上旬	リーダー養成合宿	
11月上旬	秋強化合宿	
2月	スキー合宿	
3月	冬合宿、歓送会	

※他、各種フリープラン、兼松学校(戸隠)等を検討中。

(3) 現役への指導方針

現役本部との話し合いの場である役員会(年間12回程度)、各行事の準備会を中心に以下の方針のもと指導にあたるとともに、必要に応じ研修会・講習会を実施する。

- ① 野外教育を通じて心身ともに健やかな学生生活を送ることをサポートする。
- ② 創部の理念、規約を尊重し、良識ある社会人を育成することを目指す。
- ③ 部長・OB会と現役を繋ぐ窓口として、円滑に現役支援が行えるよう、情報の共有化を図る。

また、年々早まる就職活動へ対応するため、秋強化合宿(11月上旬)をもって代引継ぎを行い、進路の決まった4年生は随時活動に復帰することで、部の活性化を図る。

(4) 本年度の副部長・監督・コーチ陣容

副部長	高 村 勲	(昭和40年卒)
〃	本 澤 直 彦	(昭和42年卒)
監 督	田 方 靖 高	(平成10年卒)
助監督	廣 橋 武 志	(平成11年卒)
コーチ	中 里 峰 雄	(平成15年卒)
〃	松 山 昌 弘	(平成16年卒)
〃	吉 岡 康 裕	(平成21年卒)
〃	飯 田 浩 平	(平成21年卒)
〃	加 藤 和 正	(平成21年卒)

